地域ボランティアプログラム

松木日向緑地プログラム

竹林整備

連携団体

ひなた緑地遊学会

2022年１月８日（土）

報告

竹の侵食を防ごう！

1月8日（土）、2022年に入って初めての竹林整備を行いました。今回は、ひなた緑地遊学会の皆さんと一緒に、松木日向緑地の東側のエリアで活動を行いました。1月6日（木）東京に大雪警報が出された翌日、南大沢キャンパスも雪景色となり、日光のあたり具合により、2日経過してもキャンパス内には雪の残る場所があったため、緑地にも雪が残っていないか心配もありましたが、今回の活動場所にはほとんど残っておらず、快晴の中、取り組むことができました。

今回活動を行った場所は常緑樹林の多いエリアです。このエリアに竹が生えてこないようにと、5年ぐらい前から、ひなた緑地遊学会の皆さんが竹の間伐に取り組んでいたとのことですが、新型コロナウイルスの影響で活動が中止、或いは減少したことで竹が増えてしまっていました。この状況を改善するため、ひなた緑地遊学会の皆さんとともに、学生9名が取り組みました。

▲ツルの巻き付いた竹を発見！

▲初挑戦！沢山切りました。

視界が変わっていく

11月の間伐場所と比較すると傾斜はきつくないものの、過去に間伐した竹が積み重なっている場所が多く、且つ、古くなった竹を踏んでしまい、足場が不安定になるという場所もあったため、伐採した竹をきれいに積み重ねることや枝払いをしっかり行うようにしました。密生していたため、他の竹や樹木に引っかかって倒れにくい竹もありましたが、声を掛け合って伐採するごとに、視界が明るくなっていくのを感じました。

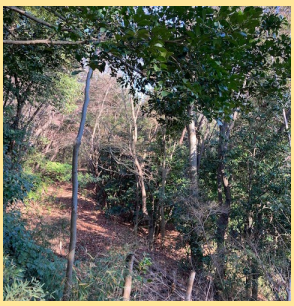
今回の活動場所

首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会 『ひなたブック』, 2007より

「今までで一番多く竹を切ったかもしれない」という声もありました。活動に取り組むごとに切り方も上達していますし、切るスピードも上がって来ていると感じます。何より「竹を間伐すること」の意義を、実感として理解していっていると感じます。新年になって初めての活動は、心地よい疲れで終了しました。次回が今年度最後の活動になります。今年度の活動で学んだことを振り返りながら、取り組みたいと思います。

タヌキがいたんです…！

ひなた緑地遊学会の北出さんが「エリアの奥にタヌキがいたよ」と教えてくださいました。見に行く間に逃げてしまっていましたが、大きな声を出したりせず、そっと近づくと、左右に少し顔を振りながら、ジッとしていたそうです。



参加者の声

・思ったより多くの竹をきることが出来た。２日前に雪が降ったにもかかわらず、竹の下の土がそんなに湿っていないのは葉が雪を受け止めたと思われる。のり面での作業は足の固定が難しいので、今後も安全を最優先に作業を進めていきたい。

・今回は伐採した竹を綺麗に積む事に気を配ろうと思い実行した。

・集中した場所にある竹をほぼ纏めて伐採することができた。